

幸せとは

関わる言葉を、拾ってみました

技術士事務所

ゆめのりさあち

- 人間が求める最終の目的こそ幸福だ。
- 生まれながらに持っている可能性を花開かせて実現化することにより生まれてくる充実した在り方こそ幸福。
- 幸福とは、心の平安と喜びだ。
- つねに他人と語り合い、ほんとうによいことを確かめ合いながら生きていくことができれば、人は自由にもなれるし、幸福にもなれるはずだ。
- 幸せとは、自分に対する肯定である。
- 幸せとは、すべての人たちが幸福であること。

- 幸せとは、愛する人が幸せでいること。
- 幸福とは、一つは、喜んで自分の運命に従えること。不幸や失敗も含めて。もう一つは、毎晩、明日の朝、さわやかに目覚めることを楽しみに、おだやかに眠りにつけること。
- 働く喜びに目覚めること。安らぎや満足感に満ちた休息の喜びも、仕事をしている人でなければ味わえない。懸命に働き続ける。その仕事が、何らかの社会の役に立っていると確信できる。そんな状態以上に幸福なことはない。

- どんな仕事でも、真剣に没頭すれば面白くなり、引き込まれていく。それによる創造と成功の喜びが人を幸福に導く。
- その人自身が幸福だと感じることに。それが究極の幸福だ。
- 真の幸福は自分一人のものではなく、まわりの人すべてを幸福にする。
- 喜びは、感謝の念を持つことから生まれる。
- 幸福の原因は人間自身のうちにおこるもので、外界から生じる原因より大きい。

- 人と生まれて最大の幸福は人柄に帰する。人柄のもつ価値は絶対的な価値である。
- 最高級の享樂は、精神的享樂である。
- 健全な身体に宿る健全は精神が、我々の幸福のためには第一の最も重要な財宝である。
- 最も直接的に我々を幸福にしてくれるのは、心の朗らかさである。
- 朗らかさは幸福の正真正銘の実態である。
- 栄華、栄達、名譽のために自己の安静と余暇と独立を犠牲にすることは愚の骨頂である。

- 幸福になりたいと思ったら、そのために努力しなければならない。
- 苛立ったり、不機嫌だったりする情念を制御するための最高の治療薬は高邁である。
- 情念の伝染を阻止しつつ、喜びを伝染させる所作こそが礼節である。
- 自分が上機嫌でいることこそ大事だ。
- 幸福自身が徳である。
- 幸福になることは他人に対しても義務である。

- 幸せだから笑うのではない。笑うから幸せなのだ。
- あらゆる幸福は、意志と自制とでできている。
- 希望する、これは幸福であるということだ。
- 自由な行動の中でこそ人は幸福なのだ。
- 自分で作る幸福は、決して人を欺かない。それは学ことであり、そして人は学ぶものである。

- どんな職でも、自分が支配する限りは楽しみであり、服従するかぎり是不愉快である。
- 人間は、意欲し創造することによってのみ幸福である。
- 自分で進んでやる仕事は快樂であり幸福である。
- 自分の中に自然に湧きあがってきた「本当にやりたいこと」「本当に知りたくないこと」に興味を持ち、それに従って生きること。

- どんな職でも、自分が支配する限りは楽しみであり、服従するかぎり是不愉快である。
- 人間は、意欲し創造することによってのみ幸福である。
- 自分で進んでやる仕事は快樂であり幸福である。
- 自分の中に自然に湧きあがってきた「本当にやりたいこと」「本当に知りたくないこと」に興味を持ち、それに従って生きること。

- 仕事は幸福の源である。これ以上上手になれないというところまで技術を行使すること、作り上げることを楽しむ。
- 退屈を楽しむ、退屈を味わうことができないければ幸せになれない。
- 幅広い興味を持つこと。熱中すること。バランスが重要。
- 幸せは、熟した果実がぽとりと口の中に落ちてくるものではなく、獲得するものである。

- ほしいものをいくつか持っていないことこそ、幸福の不可欠の要素である。
- おのれの能力を最も完全に発揮するとき、最大の幸福が訪れる。
- 喜びを味わうためには、困難が存在していなければならない。
- 自尊心がなければ、真の幸福はまず不可能である。
- 「ほんとうの幸福」と「生きがい」は同義語。
- 「生きがい」と呼ぶべきものは、生かされていると感じるところにその姿を現す。

- 「生きがい」は目的にたどり着くことによって手に入れるものではなく、目的に向かって歩く道程そのものにある。
- 「生きがい」は作り出すものである前に、発見するもの。
- 「生きがい」は自分がしたいと思うことと義務の一致、希望と使命が一致するときに顕現する。この世における自分の役割を見出していくこと。
- 時間がない。時間がせまっている。間に合っても合わなくてもいいのではないか。ただ一生懸命生きたというだけで。

- 真の幸福を知るのは、真に悲しみと苦しみを経験した人である。
- 強い意欲、それが生きがいというものだ。
- 「頭」と「心＝身体」が協働できた時、そこに至福の喜びが訪れる。その状態を「遊び」と呼ぶ。
- 「遊び」とは無駄の上にごそ成り立つのであり、「結果」はあくまでも二次的にすぎないもので、「プロセス」のところにごそ面白味がある。
- 物事を深く「味わう」ためには、その物事に向かって創造的に「遊ぶ」ことが大切。

- 心をさいなむ悩みが何一つない、そんな日常を送ることこそが、実は最高の楽しみなのだ。
- 夢は人生を拓く原動力。
- 成功と幸福とを、不成功と不幸とを同一視するようになって以来、人間は真の幸福が何であるかを理解し得なくなった。
- 人が人として存在していること自体が幸福なのだ。
- 人格こそが幸福である。

- 我々は我々の愛する者に対して、自分が幸福であることよりなお以上の善いことを為し得るであろうか。
- 機嫌がよいこと、丁寧なこと、新設なこと、寛大なことなど、幸福はつねに外に現れる。
- 人生の意味は全体への貢献である。他者への関心、協力である。
- 強い信念を持つと行動の指針となり、行動力や自信が生まれ、楽しさも生まれる。
- 家族、友達、コミュニティとよくつながっている人ほど幸せで身体的にも健康で長生きする。

- 静かで、平穏で、身近なしあわせ。
- できるだけ善い人間になろうとして最善をつくす者が、最善の生涯を送り、前よりも一層善くなっているとの自覚のもっとも大きい者が、もっとも楽しい生涯を送る者。
- 最高善とは人間のめざすべき最高の目的であり、最高善に当たるものが幸福だ。
- 幸福とは、財産がたくさんあるとか、地位が高いとか、何か権勢だの権力だのがあることに属するのではなくて、悩みがないこと、感情が穏やかなこと、自然にかなった限度を定める靈魂の状態に属する。

- 幸福に生きるということは、自然に従って生きること。
- 幸福はそんなに華やかなものでもにぎやかなものでもなく、夢中になって求めるものでもない。
- 個人が自然に、自由に交流する場でこそ人間的な幸福や喜びが育まれる。
- 自分の喜びや幸福が相手の喜びや幸福となり、相手の喜びや幸福が自分の喜びや幸福となる。
- 幸福になること、幸福をめざすことが相手にたいする義務である。

- 幸福は、見返りを求めなかった人のところに突然舞い込むご褒美である。
- 「天が為すことに合わせるしかない」、それが日本語の「しあわせ」という言葉の由来。
- 「普通」の連続が「幸せ」。
- 自分は何が面白くて、何を求めているのかを明確にわかっている人こそ、幸せ。
- 性格が良いほど幸せとの正の相関がある。
- 何かを創っている人はみんな幸せ。
- その能力が欲望とひとしい状態にある者は完全に幸福といえる。

- 自分は何を得たいのかについて鋭敏であり、それに対してまっすぐ努力するという生き方は、喜びをもって生きるために大切なこと。
- 協力しながら思い描いたことを一步一步実現していくその過程には、創造の喜びがあり、協力しあう喜びがある。
- 人間が獲得した本性が満たされていれば、人間は幸せを感じられる。

参照図書

- ・ ニコマコス倫理学 アリストテレス 100分で名著 山本芳久
- ・ 「幸せ」について考えよう 100分で名著
井原西鶴「好色一代男」「好色一代女」 島田雅彦
アダム・スミス「国富論」 浜矩子
ヘーゲル「精神現象学」 西研
フロイト「精神分析入門」 鈴木晶
- ・ 超訳 ヒルティの幸福論 カール・ヒルティ 訳 斎藤 孝
- ・ 幸福について 人生論 ショーペンハウアー 訳 橋本文夫
- ・ 幸福論 アラン 100分で名著 合田正人
- ・ 幸福論 アラン 訳 石川湧
- ・ 幸福論 ラッセル 100分で名著 小川仁志
- ・ ラッセル幸福論 訳 安藤貞雄
- ・ 「生きがいについて」 神谷美恵子 100分de名著 若松英輔
- ・ 「仕事なんか生きがいにするな」生きる意味を再び考える 泉谷閑示
- ・ 方丈記 鴨長明 100分de名著 小林一彦
- ・ 人生論ノート 三木清 100分de名著 岸見一郎
- ・ 人生の意味の心理学 アドラー 100分de名著 岸見一郎
- ・ 人生の99%は思い込み 鈴木敏昭
- ・ TED ロバート・ウォールディングー
- ・ 幸福とは何か 長谷川宏
- ・ 行く先はいつも名著が教えてくれる 秋満吉彦

- 莊子 100分de名著 玄侑宗久
- もしも1年後、この世にいないとしたら 清水研
- 幸せのメカニズム 実践・幸福学入門 前野隆司
- しあわせの哲学 学びのきほん 西研
- 未来へつづく進化論 種の起源 ダーウィン 100分de名著 長谷川眞理子